

感動の場

『無題』

制作年不詳 小川原 脩 画



深緑に茂った樹々の向こうには、しゃれた洋風建築のビルディング。屋上の旗が、さわやかな夏の風になびいています。小川原脩は、この作品に描いた場所や建物について直接語ってはいないのですが、白と赤のレンガ造りの特徴から、北海道新聞社の旧社屋と見られます。小川原は北海道新聞社が全面的に支援して創立された美術公募展・全道展の中心人物でもありましたし、新聞にもコラムや紀行文、カットなどを請け負うなど、深いつながりがありました。札幌の新聞社にも度々足を運んでいたようです。

また、不明となっている制作年も気になるところです。よく見ると道新社屋の手前に灰色の大きな建物の一部が描き込まれています。これは1960年に竣工した拓銀本店しゅんこうと思われ、時代も絞られてくるでしょう。路上には昔懐かしいシルエットの車、街路樹側は大通公園で、行き交う人や靴磨きの様子も描かれています。北の大都会・札幌の開けた高い空を感じる一点です。

文：沼田 絵美（小川原脩記念美術館 学芸員）

郵便ポストの移り変わり 風土館の丸型郵便ポスト

日本で最初にポストが作られたのは1871（明治4）年のこと。「書状集め箱」という名で登場しました。翌年1872（明治5）年には角柱型の「郵便箱」が生まれ、郵便ポストは人々に少しずつ浸透していきました。それまでのポストは木製で火事に弱かったため、1901（明治34）年に鉄製の「俵谷式ポスト」が生まれました。これが最初の丸型郵便ポストでした。円柱型の採用理由は「通行の邪魔にならないため」だったようです。その後も数タイプの丸型ポストが作られ、おなじみの丸型ポスト「郵便差出箱1号丸型」が誕生したのは1949（昭和24）年のことでした。

風土館に収蔵されていた丸型ポストも同型のもので、1950（昭和25）年に製造されたことがわかっています。一説には、比羅夫郵便局に設置されていたものが1969（昭和44）年の高砂への移転に伴い移設された、ともされています。倶知安町内で役割を終えた丸型ポストは町に寄贈され、倶知安風土館開設後は館内で展示物として第二の人生を歩んできました。そしてこの度、倶知安郵便局の全面的な協力のもと、現役復帰することになったのです。一度撤去され、博物館の収蔵資料になった丸型郵便ポストが現役復帰するのは記録上、全国初です。

「郵便差出箱1号丸型」は1969（昭和44）年以降は製造が中止され、後継の「郵便差出箱1号角型」との入れ替えによりその数を減らし、現在も稼働しているのは全国で5300本ほどとされています。皆さんも、情緒あふれる倶知安風土館の郵便ポストに投函してみてください。

文：小田桐 亮（倶知安風土館 学芸員）

ふるさと探訪

472回



▲現役復帰前の丸型郵便ポスト（展示室内）

展覧会のお知らせ

■第1展示室

没後20年小川原脩展「私の中の原風景」part1

会期：開催中～8月15日(月)

没後20年小川原脩展「私の中の原風景」part2

1960・80年代を中心に6点を入れ替えます。「仮面が見ている」（1968）、「沈黙の宮殿」（1982）といった人気作品が登場。ぜひご観覧ください。

会期：8月20日(土)～11月27日(日)

■第2展示室

しりべしミュージアムロード共同展

＜M R あいうえお＞小川原脩のどうぶつカルタ

岩内・共和・ニセコ・倶知安にある5つの美術館・文学館の共同企画。

今回は絵画と作文がテーマ。当館は作品をカルタ風に紹介します。

会期：開催中～9月25日(日)

アート・イベントのお知らせ

■ギャラリー・トーク

「没後20年小川原脩展 この一点『暗闇のDUETT』」

印象的な画題の作品について、学芸員が楽しくお話しします。

日時：8月20日(土)14時～14時30分 会場：第1展示室（無料）

お相手：沼田絵美（学芸員）

■土曜サロン

おとなの手しごと（14）「シールがウロコのお魚づくり」

シールを使ってカラフルなウロコのお魚のモチーフを作ります。

日時：8月6日(土)14時～16時 会場：ロビー（無料）

お相手：沼田絵美（学芸員）

定員：10名※要予約、高校生以上、親子可

名曲とめぐる世界の美術館（2）「オルセー美術館」

パリのオルセー美術館をクラシックの名曲とともにめぐる映像を鑑賞します。

日時：8月27日(土)14時～14時45分 会場：映像ルーム（無料）

お相手：金澤逸子（学芸スタッフ）

倶知安風土館イベントのお知らせ

■寺子屋ミュージアム「作ろう！知ろう！ニセコ連峰②」

ニセコ連峰のミニチュア作り。②は白樺山～チセヌプリ周辺です。

日時：8月20日(土)13時30分～16時30分 場所：倶知安風土館

講師：古市竜太さん（マウンテンガイド・コヨーテ主宰） 参加費：300円/1個（材料代）

定員：10名※要予約 予約受付：電話申込（☎22-6631）

■期間限定スタンプが押印されます

倶知安風土館の丸型郵便ポストに投函された郵便物には、風景入り日付印（とび色）が押印されます。

対象：切手が貼付された郵便物および通常はがき（国内宛て限定）※投函口サイズ30mm×170mm程度

押印期間：12月14日(水)12時差出分まで（土日祝日および風土館休館日は郵便物は収集されません）

※速達や日付印（黒色）の押印をご希望の場合、他のポストまたは郵便局をご利用ください

ミュージアム 通信

小川原脩記念美術館 ☎21-4141

観覧料：一般 500円（400円）

高校生 300円（200円）

小中学生 100円（50円）

倶知安風土館 ☎22-6631

観覧料：一般 200円（100円）

高校生以下、美術館観覧者無料

開館時間は9時～17時

入館は16時30分まで

※（ ）内は10名以上の団体料金

8月の休館日 毎週火曜日、
美術館のみ17日～19日（展示替え）

展覧会初日（20日）は美術館観覧無料

小樽芸術村へ

前回、お茶漬の話・・・もとい、浮世絵の話を書きましたが、先日、当館のフライヤー展示コーナーにて情感溢れる夜の波止場の版画を見かけました。小樽芸術村企画展「川瀬巴水と吉田博 水辺の詩」。ちょうど浮世絵経由で木版画の表現に興味を持っていた折、早速小樽へ。

川瀬と吉田は、大正から昭和にかけて風景版画の分野で活躍した画家で、この頃から木版の技術はさらに向上し、洋画の要素も取り入れつつ「浮世絵版画」から「新版画」へ移行していきます。水面の表現一つとっても実に多彩であり、その美しさに感嘆しました。その独特な分業の仕方も含め、日本の版画は非常に面白いですね。

ふくはら ひでかず
館長 福原秀和